

2025年9月4日 日本子ども宣教局（子ども） シム・ジュウファン牧師

9月学院福音化の主題は次のとおりです。

1課「パウロの導き」

2課「パウロの働き」

3課「パウロのターニングポイント」

4課「パウロの特別な恵み」

今月の学院福音化の内容と、そこに書いてある聖句は、直接、聖書を開いて見てください。皆さんも黙想するのに、少しでも役立つようにと願う心で、今日のみことばを整理してみました。

個人的に上の4つの主題を一つにまとめて、このようにタイトルをつけました。

「私の選びの器」

使徒の働き9章15節です。

しかし、主はアナニアに言われた。「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子らの前に運ぶ、わたしの選びの器です。

では、まず皆さんに一つ質問をします。

「皆さん作品ですか。器ですか」

たった今読んだみことばがあるので作品とは答えないでしょう。皆さんも器です。だれが作られましたか。陶器師である神様が作られたのです。

エレミヤ18章1節から6節を見ます。

01 主からエレミヤに、このようなことばがあった。

02 「立って、陶器師の家に下れ。そこで、あなたにわたしのことばを聞かせる。」

03 私が陶器師の家に下って行くと、見よ、彼はろくろで仕事をしているところだった。

04 陶器師が粘土で制作中の器は、彼の手で壊されたが、それは再び、陶器師自身の気に入るほかの器に作り替えられた。

05 それから、私に次のような主のことばがあった。

06 「イスラエルの家よ、わたしがこの陶器師のように、あなたがたにすることはできないだろうか——主のことば——。見よ。粘土が陶器師の手の中ににあるように、イスラエルの家よ、あなたがたはわたしの手の中にいる。」

神様がご自身の気に入る作品として器を作られるのです。

それなら、神様はなぜ私たちを器として作られたのでしょうか。パウロはこのように話しています。

IIコリント4章5節から7節です。

05 私たちは自分自身を宣べ伝えているのではなく、主なるイエス・キリストを宣べ伝えています。私たち自身は、イエスのためにあなたがたに仕えるしもべなのです。

06 「闇の中から光が輝き出よ」と言われた神が、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせるために、私たちの心を照らしてくださったのです。

07 私たちは、この宝を土の器の中に入れています。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものではないことが明らかになるためです。"

7節で言われている宝は、まさにイエス・キリストです。

整理するなら、宝であるイエス・キリストだけがまことの作品であり、私たちはその宝を入れる器なのです。器である私たちの人生を通して、宝であるキリストだけが崇められ、キリストだけがほめたたえられ、キリストだけが現われる、そのような器として用いられるべきなのです。5節と6節のみことばが、その内容です。「主なるイエス・キリストを宣べ伝えています」「キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせるため」私たちの器にそれを入れて、私たちを通して伝えるようにされるのです。

エペソ2章10節でも、パウロはこのように話します。

10 実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。

ほとんどの場合、日本語聖書が韓国語聖書より翻訳が良いのですが、エペソ2章10節だけは韓国語聖書がより良いようです。日本語の聖書では「神の作品だ」と言っていますが、ここに使われている単語は、単純に作られたこと、被造物という意味を持っている単語です。私たちは単に神様に造られた被造物だということです。

そして、エペソ2章10節にあるように、良い行いをあらかじめ備えてくださったとありますが、私がこの学院福音化の時間をを通して、何度も語っているので、覚えているでしょうが、聖書で話す良い行い、または、良いことというのは、神様の栄光を現すことで、イエス・キリストを現わすことを言うのです。

今日の本文みことばにまた戻りましょう。

パウロはどんな器として選ばれたと言われているでしょうか。もう一度読んでみましょう。

使徒9章15節

しかし、主はアナニアに言わされた。「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子らの前に運ぶ、わたしの選びの器です。

「わたしの名を…運ぶ、わたしの選びの器です」

パウロはイエス・キリストの名を運ぶ働きのために選ばれた器だということです。神様の手に捕らえられた道具としてです。それゆえ、三度にもわたって伝道旅行をしました。そして、13巻または、14巻の書簡を書くことになりました。すると、私たちはパウロが何をしたのか、その業績がどんなものなのかに、あまりに多くの関心を持ってはいけません。簡単に、パウロがしたそのことだけを見て、彼をモデルして同じ生活を送るべきだというではないのです。もしそうだったら、パウロが受けた苦難にも憧れて、その苦難も同じように参加する生活を送るべきではないでしょうか。

パウロの苦難について一度見てみましょう。

IIコリント11章23節から27節です。

23 彼らはキリストのしもべですか。私は狂気したように言いますが、私は彼ら以上にそうです。労苦したことはずつと多く、牢に入れられたこともずっと多く、むち打たれたことははるかに多く、死に直面したこともたびたびありました。

24 ユダヤ人から四十に一足りないむちを受けたことが五度、

25 ローマ人にむちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度、一夜、海上を漂ったこともあります。

26 何度も旅をし、川の難、盜賊の難、同胞から受ける難、異邦人から受ける難、町での難、荒野での難、海上の難、  
偽兄弟による難にあい、

27 労し苦しみ、たびたび眠らずに過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さの中に裸でいたこともありました。

このようなことも覚えて祈っているのでしょうか。

私たち神様がパウロをどのように用いられたか、パウロを通してどんなことを成し遂げられたのか見なければなりません。また、そういう神様の導きに、パウロがどのような信仰の告白をしたのか、従順にする生活を送ったのかに  
関心を持つべきです。

それゆえ、神様の選びの器として用いられる中で、パウロ自身が、自分の認識、自己認識をどのようにしたのか、どのように変化したのかを見てみます。

皆さんよくご存じでしょうが、パウロにはサウロという名前がありました。サウロというのはヘブライ語で、その名をギリシア語にしたのがパウロです。正確には、パウロスと言います。そのパウロという名前はラテン語に由来しています。「小さい者」という意味があります。パウロがイエス様に会う前がサウロで、出会った後にパウロに変わったと言っているではありません。その悔い改めによって名前が変わったというのは聖書的な根拠はありません。単に、なぜ「小さい者」という意味の名前を持っているパウロが、選びの器として用いられたのでしょうか。パウロはその名前が持っている意味のとおり、パウロは働きの後期に行くほど、神様の前で小さい者として導かれて行く生活を送っています。

パウロの書簡の中で、AD53くらいに、いちばん最初に記録されたガラテヤ人への手紙の最初の挨拶を見ると自分をこのように表現しています。

ガラテヤ1章1節

人々から出たのではなく、人間を通してでもなく、イエス・キリストと、キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神によって、使徒とされたパウロと、

使徒としての自負心とプライドがあることを感じるでしょう。

実際に、働きの初期には、多くのユダヤ人から、「あなたはイエスが生きておられる時に弟子になった者でもないのに、使徒だと自分で言うのか」と、多く迫害を受けました。それゆえ、その最初に書いた書簡であるガラテヤ人への手紙では、人間を通してではなく、神様が私をそのように立てられたと、アピールをしているのです。

それでは、その6年後であるAD59頃に記録されたコリント人への手紙第一では、15章9節にこのように表現しています。

Iコリント15章9節

私は使徒の中では最も小さい者であり、神の教会を迫害したのですから、使徒と呼ばれるに値しない者です。

とても謙虚になっていて、使徒の中では最も小さい者だと言っています。それとともにその続きの10節ではまた、このように話します。

## Iコリント 15章 10節

ところが、神の恵みによって、わたし いま わたし は今 の私 になりました。そして、わたし たい かみ めぐ むだ はならず、わたし ほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。働いたのは私ではなく、私とともにあった神の恵みなのですが。

私が働いたのではなく、すべてが神様の恵みだと告白しています。

その次、その1年後であるAD60に記録したエペソ人への手紙には、また、このように告白をします。

## エペソ 3章 8節

すべての聖徒たちのうちで最も小さな私に、この恵みが与えられたのは、キリストの測り知れない富を福音として異邦人に宣べ伝えるためであり、

その前のコリント人への手紙第一は1年前ですが、「使徒の中で最も小さい者」と言いましたが、1年後には「すべての聖徒たちのうちで最も小さい私」このように話します。

そしてパウロが死ぬ1年前であるAD65に、ローマの牢獄でテモテへの手紙第一を記録して、このように告白をします。

## Iテモテ 1章 15節

「キリスト・イエスは罪人を救うために世に来られた」ということばは眞実であり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。

罪人のかしらが私だということです。罪人のかしらとは、「サタン、悪魔」です。いま、自分自身がサタン、悪魔だと言っているのです。そのような私をキリストが生かしてくださったと告白しています。続く16節でまた、このように話します。

## Iテモテ 1章 16節

しかし、私はあわれみを受けました。それは、キリスト・イエスがこの上ない寛容をまず私に示し、私を、ご自分を信じて永遠のいのちを得ることになる人々の先例にするためでした。

この内容が理解できますか。罪人のかしらであった私、そのような私があわれみを受けた、私を模範として、またほかの永遠のいのちを得ることになる人々に、福音を宣べ伝えようとされたと言っています。

このテモテへの手紙第一1章15、16節の話が、今日の本文である使徒9章を背景としています。イエスの名を呼ぶ者を捕まえに行くためにダマスコに行こうとした私に復活された主が訪ねてきて、会ってくださいました。そして、異邦人と王たちとイスラエルの子らの前にイエスの名を伝える選びの器として選んでくださったということです。神様が私を何のために選ばれたかに対する理由の説明を、死ぬ1年前にも、また、このように告白しているということです。

私と皆さんみんなが、神様に選ばれた器として、今日を生きています。その家庭、その教会、皆さんがいる学校、職場、そこで主の御名を運ぶ器として。皆さんのが置かれたすべての環境の中で、従順を通して神の国の生き方をしてください。この時代には、使徒パウロのような業績を残す者が必要なのではなく、パウロのような小さい者としての信仰告白をする者が必要なのです。

最後に今月の題名を再びこのように整理をしてみました。

- 1課「パウロの導き」→「パウロを通した聖霊の導き」
- 2課「パウロの働き」→「パウロを通した聖霊の働き」
- 3課「パウロのターニングポイント」→「パウロに対する聖霊の指示」
- 4課「パウロの特別な恵み」→「パウロに臨んだ神様の恵み」

1、2、3、4課の説明はしません。

観点を、神様が働きをされた部分に、神様がなさった働きに置いて一か月間各自がみことばを默想してください。  
以上です